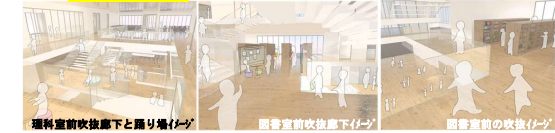


＜多様な学習内容や学習形態による活動が可能な施設＞

### 1. 吹抜が個性豊かな学習環境をつくる

- ① 踊り場の特徴を活かした学習環境
  - ・踊り場は、視線の交錯が少ないこと、各階の中間にあることなどの特徴を有する空間です。下級生は高学年に対する目標や憧れ、上級生はリーダーシップや規範意識を育成空間として、上下階の児童が相互に刺激し合う環境とします。
  - ・普通教室1階の2、3階をつなぐ踊り場は大階段を計画し、学習成果の発表等階毎の活動をつなげる場とします。
- ② 吹抜廊下と教室の一体利用
  - ・特別教室は、吹抜を東西に渡す、多様な機能をもった吹抜廊下と併せて活用することで、各教科の学習内容に応じた多様な学習形態を可能にします。
  - ・吹抜廊下は、吹抜から、また階段動線により自然と視界に入るため、学習成果や校内アワード結果などを展示する場としても計画します。



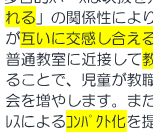
児童のもつ豊かな創造性を発揮できる空間を確保した施設

### 2. 児童の特性を支え育む空間づくり

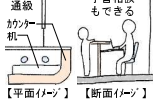
- ① 学年毎の学習環境と生活づくり
  - ・児童の発達段階に応じた、学びと生活の場を計画します。低・中・高学年は階ごとにゾーニングを行い、身体の小さい低学年を低階階に配置します。
  - ・低学年ゾーニングは、学校に慣れることを意識して、接地階の屋外に開かれた教室とします。ゾーニングを併設するなど、落ち着いた空間づくりをします。
  - ・中学年ゾーニングは2階に配置し、踊り場を介して低・高学年と関わり合うことで協調性を育むとともに、高度化する学習への興味を促す計画とします。
  - ・高学年ゾーニングは、多目的スペースを特別教室の前にも配置し、多様な学習の成果が目当たりにできる、知的好奇心を刺激するような計画とします。
  - ・特別教室は利用頻度が多い高学年のゾーニングに配置して動線の短縮を図ります。
- ② 自主性を育む丁寧な環境づくり
  - ・学年に応じて、ゾーニングや異なる機能の多目的スペースを、普通教室や特別教室の廻りに効果的に配置します。また、異なる人数の学習集団が自由に活用できる什器計画とします。
  - ・多目的スペースは吹抜を介した「見る見られる」の関係性により、児童や教職員が互いに交感し合える場所とします。
  - ・普通教室に近接して教師ゾーニングを計画することで、児童が教職員と関わり合う機会を増やします。また職員室のゾーニングによるゾーニング化を提案します。
- ③ 屋内外を横断的に活用する
  - ・普通教室は学年毎に広さと機能が異なる学年ゾーニングと多目的スペースを活用して、多様な学習形態を可能にするとともに、五感を刺激する環境をつくりまします。



可動機を自由に移動して、自ら学習の場をつくる



多目的スペースは吹抜を介した「見る見られる」の関係性により、児童や教職員が互いに交感し合える場所とします。



教師ゾーニングは、多目的スペースの一角に教師用デスクを計画し、児童や教職員の相談や開会に際しては互いに交感し合える環境を整えます。

＜フレキシブルな施設計画＞

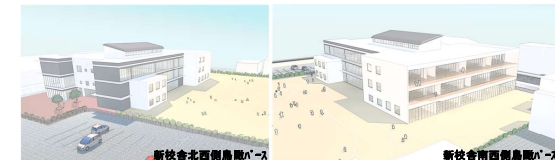
### 3. 屋外に開き落ち着きがある特別支援教室

- ・北側と西側の道路から、雑音をとった静で落ち着いた新校舎1階部分には、普通教室に転用できる特別支援教室を計画します。支援を必要とする児童の生活の困難さから発生するストレスの解消に配慮した計画とします。
- ・特別支援教室は、大きなゾーニングを介して屋外へほどと連続的に活用することで、多様な支援活動に柔軟に対応できる施設とします。

＜インクルーシブ教育に配慮した施設計画＞

### 4. 可変する学習環境と通級教室の分散配置

- ・各階の普通教室は可動間仕切りで多目的スペースと仕切れる計画とし、適宜落ち着きのある空間が確保できる計画にします。障害の程度とその人数に応じて、特別支援教室を各階に分散配置できる施設とします。
- ・通級教室は各階に配置し、各学年の普通教室との連携に配慮します。また落ち着きのある場所に配置し、出入口はゾーニングを設けることでプライバシーに配慮します。
- ・不登校児の通級教室利用を想定して、山へに近接した場所に専用の脱靴室を計画します。通級教室までアワードに配慮することで、通いやすさに配慮します。



新校舎北西側鳥瞰図

新校舎南西側鳥瞰図

## 関り合いの中で共に学び合う三次小学校をみんなで作る

「ひとづくり」はまちづくりの基礎であり、小学校はまちづくりの核とする御市の教育ビジョンに共感し、私たちは学校を中心に吹抜「空のつ」をつくることを考えました。吹抜は子どもたちの交流や学び想像力の育成に寄与すると共に、地域と関わり合い（コミュニティ）のなかで共に学び合う学校像の実現を意図し、新校舎のゾーニング化にも寄与します。

少子高齢化のなかで、児童一人ひとりの「生きる力」を高めることが、今の教育環境に求められています。多様な学習環境の整備は、新設の学校に必要な不可欠である一方で、建設費や維持管理費の増大を招きかねません。

学校建築を取り巻く環境について、御市の学校教育施設総の総床面積は14万㎡（公共施設全体の29%）あり、老朽化による更新費の増大が見込まれます。公共施設管理の全体を捉えて、新設する学校はゾーニング化を図りながら、効率的な施設利用を促す計画立案（教室の多目的利用、職員室のゾーニング化など）が必要と考えます。



配置検討	北側校舎		東側校舎		南側校舎		西側校舎	
	A-1案	B-1案	B-2案	C-1案	C-2案	D-1案		
居住性(昼間開放性)	○	○	○	○	○	○	○	○
地域への開放性	○	○	○	△	△	△	△	△
工事期間中の影響	×	×	×	×	×	×	×	×
隣地への影響	×	×	×	×	×	×	×	×

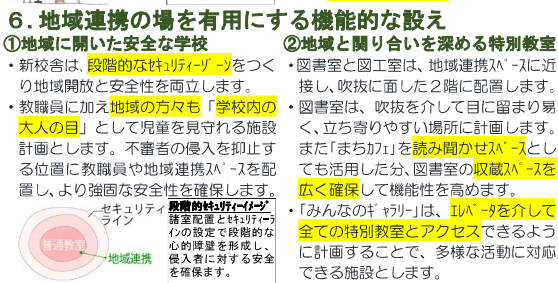
  

区分	概算工事費
建築工事費(机・家具含む)	1,335,000千円
電気設備工事費	133,000千円
機械設備工事費	197,000千円
外構工事費(校舎・遊具・照明含む)	164,000千円
総工事費	1,829,000千円

＜学校と家庭や地域との連携・協働を図るエリアの確保や「場」のある施設＞

### 5. 歴史の舞台に地域連携の要をつくる

- ① 地域連携エリアは北に集約する
  - ・地域連携エリアは、放課後児童クラブや屋内運動場、駐車場と一体的に敷地北側の市道大内旭町線沿いに計画します。
  - ・「まちなかひろば」は利用する全ての人が通える場として関わり合いを誘発します。
  - ・駐車場は、地域連携の乗入れや放課後児童クラブのお迎えなど利便性に配慮するとともに、歩車分離を徹底します。
- ② 多様な地域連携を生む2つの空間
  - ・吹抜1階には「みんなのキヤリア」を計画します。ゲストティーチャーの講義などに活用することで、学校と地域の関わり合い、人と人のつながりを吹抜から感じられる計画とします。
  - ・「まちか」は、建具を屋内外がつながるような設えにすることで、利用しやすい場所と通いやすさを演出して、地域の居場所となるように計画します。
  - ・「まちか」の活動は、北側市道大内旭町線から垣間見える設えにすることで、地域に活気を提供します。



＜児童の学習環境や学校周辺への影響を最小とする施設計画＞

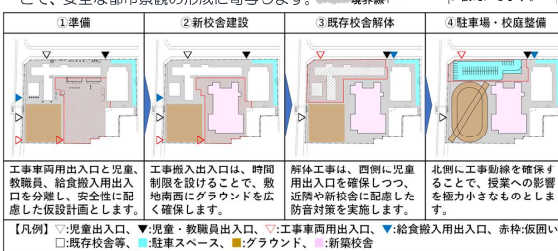
### 7. 建築計画と施工計画を総合的に勘案する

- ① 影響低減する工夫の丁寧な確立
  - ・解体工事は「防音バリア」を設置し、工事期間中の音による影響を低減します。
  - ・解体用機械は、「圧砕機」や「カッター工法」など部位ごとに効果的な機器を提案することで、粉塵や騒音、振動による影響の低減に努めます。
  - ・7m以上の有る建材の除去は、作業場所の隔離養生や粉塵漏洩防止策など、適切な除去工法を選定します。
- ② 教育機能と周辺環境を守る
  - ・新校舎は、仮設校舎が不要な配置計画期間中の音による影響を低減します。仮設校舎は「防音バリア」等に配慮し、学習環境への影響を最小限とします。
  - ・窓下校用の敷地出入口は、工事期間中も変更がない(北西側出入口のみ廃止)計画とし、混雑や危険を回避します。工事車両は、位置と箇所を限定し、周辺の交通に配慮します。
  - ・調理場解体は旧校舎と同時期とし、騒音振動の発生期間の短縮を図ります。また旧校舎の杭は有価物として残置を検討し解体期間の短縮を図ります。

＜地域の景観や近隣への日照、プライバシーに配慮した施設配置や施設計画＞

### 8. 敷地の中央に配置する

- ・新校舎は、敷地中央に配置することで、敷地境界から雑音を確保し、地域の景観や日照等の影響を低減します。
- ・新校舎は、南側の敷地境界からバリアを設け、緑地など緩衝帯を計画します。また南側壁は、階段状にバリアを設けることで、圧迫感の低減やプライバシー保護に配慮します。北西角の交差点に近接した敷地境界は、土留め壁と低木で計画し、見通しを確保することで、安全な都市景観の形成に寄与します。



【凡例】○:児童出入口、●:児童・教職員出入口、▽:工事車両出入口、▲:給食搬入出入口、赤枠:仮設校舎、□:既設校舎等、■:駐車スペース、■:グラウンド、■:新設校舎